

2012 年度 ゼミナール・シラバス

国際社会コミュニケーション学科



2012 年度ゼミナール担当者

今井 典子		P. 2
岩佐 和幸		3
岩佐 光広		4
岡本 克人		5
奥村 訓代		6
小澤 萬記		7
上岡 克己	 	8
古閑 恭子		9
斎藤 昌人		10
佐野 健太郎		11
佐野 由紀子		12
塩原 俊彦		13
周 雲喬		14
関 良子		15
DOYLE, Howard		16
遠山 茂樹		17
中西 三紀		18
中森 健二		19
藤崎 好子		20
丸井 一郎		21
持尾 伸二		22
森 直人		23
山下 興作		24
吉門 牧雄		25
LINGLEY, Darren	 	26



今井 典子 ゼミナール

【テーマ】

第二言語習得論を基に英語学習・英語指導法・英語教育を考える。

【授業内容・計画・方法】

上記で挙げたテーマに関する論文(日本語・英語)を読み基本的な内容を学ぶ。

前半は講義形式となるが、後半では参加者に発表をおこなってもらう予定である。また、年間を通して、内容に応じてディスカッションを行う。

【テキスト】

受講生と相談の上、決定する。

【過去の卒論例, または指導可能な領域】

過去の卒論指導に関しては、赴任後まだ間がないため情報は明記していないが、指導可能な領域は、第二言語習得関係と英語教育(小学校英語活動を含む)関係である。

【参加者への要望】

- ・自ら課題を見つけ、積極的に取り組む姿勢を持っていること。
- ・建設的なディスカッションに向けて努力できること(全員での討議を行うこともあります)。
- ・自分の意見や見解を持ち、また、発表(プレゼン)の際には、レジメやハンドアウト、スライドなどを工夫し、「聞き手」を意識した発表を心がけ、それに向けて取り組めること。

【オフィス・アワー】

木曜日5限

(上記時間帯以外でも、対応する時間があれば対応可能)



岩佐 和幸 ゼミナール

【テーマ】

地域からグローバル化を考える

【授業内容・計画・方法】

経済社会の様々な分野で急速に展開している“グローバル化”の問題を、身近なポイントに焦点を当て、社会科学的なフィールド調査をするというのが、本ゼミの課題です。これまで高知を中心に調査を行ってきましたが、**2012** 年度も参加者の問題関心を踏まえつつ、全員で1つのテーマを決めてフィールド調査を実施し、商品／地域という「窓」を通してグローバル化や国際関係の問題にアプローチしたいと思います。そして、独自の調査・分析を基に、年度末には調査報告書の執筆・刊行を目指します。

【テキスト】

最初の段階では、調査に必要な分析視角を学ぶため、テキストを輪読しています。

今年度は、ラジ・パテル『肥満と飢餓』作品社、**2010** 年を取り上げました。来年度は、ナオミ・クライン『ショック・ドクトリン(上・下)』岩波書店、**2011** 年、等を候補に考えています。

【過去の卒論例、または指導可能な領域】

2010 年度卒業生のテーマは、以下のとおりです。

スウェーデンの新しい移民問題 / 女子野球とジェンダー / 核兵器廃絶運動 / 無料低額診療事業と高知の貧困問題 / 格差社会と大学生の貧困 / ラフティング観光が中山間地域に与える影響

【参加者への要望】

ゼミと通常の講義とは異質のものであることを、まず認識してください。一方的な指導はしません。むしろ、皆さん主体でゼミを創り上げていく気持ちで参加して下さい。

【現在開かれているゼミの模擬受講】

火曜3限に開講しています。模擬受講希望の人は、事前に連絡して下さい。

【オフィス・アワー】

今学期は木曜 3 限です。また、上記時間帯以外でも、事前連絡をもらえれば対応します。

【その他】

過去のゼミ活動については、こちらを参照 ' <http://souls.cc.kochi-u.ac.jp/?&rf=1158>



岩佐 光広 ゼミナール

【テーマ】

「文化的アプローチ」を学ぶ

様々な現象を「文化」という視点から調査研究するための認識論・理論・方法論を身につける。そのための共通の基礎として文化人類学を学ぶ。文化人類学の研究は、読み(文献調査)、計画し(調査計画)、調べ(フィールドワーク)、吟味し(データ分析)、まとめる(モノグラフの作成)という一連の過程を経るが、このゼミでは特に「読む」と「書く」ことを実践する。

【授業内容・計画・方法】

ゼミナールⅠでは、文化人類学等の教科書を講読し、文化的アプローチの基礎を身につける。ゼミナールⅡでは、身近な題材をもとにした文章(2000字程度)を毎週あるいは隔週のペースで書き、それをもとに講義をすすめる。ゼミナールⅢでは、文化人類学等の論文や研究書を講読し、文化的アプローチの理解を深める。ゼミナールⅣでは自分でテーマを決め、それに関する文章(2000字程度)を毎週あるいは隔週のペースで書き、卒業論文のテーマを探る。ゼミナールⅤ・Ⅵでは卒業論文の執筆に取り組む。

【テキスト】

基本的には受講者の関心や希望に応じて、相談のうえで決定する。

【過去の卒論例, または指導可能な領域】

「文化」という視点からアプローチしようとするならば、どのようなテーマでもある程度対応する。詳しくは、「高知大学研究者総覧」(<http://www.jimu.kochi-u.ac.jp/~soran/index.html>)、あるいは「SOULS」(<http://souls.cc.kochi-u.ac.jp/?rf=4185>)を参照。

【参加者への要望】

「常識」に挑む気概をもって学びましょう。

【オフィス・アワー】

平成23年度後期は「木曜日 4限目」だが、事前に連絡があれば可能な範囲で対応する。

【その他】(others)

フィールドワークは必要条件でも十分条件でもない。フィールドワークを希望する学生はウェルカムだが、調査方法論の学習、先行研究の吟味、調査計画書／調査報告書の作製などをしっかりやってもらう(フィールドワークは「スタディーツアー」ではありません)。



岡本 克人 ゼミナール

【テーマ】

言葉の世界と心

【授業内容・計画・方法】

言語についてはさまざまなアプローチがあるが、身近な日本語の方言、基本的には習得している英語、さらにはフランス語（他の言語の場合は教官がすべて解説する）などを比較しながら、言語を学ぶ楽しみを知る。また、希望者にはそれなりのスキル（フランス語会話等）を着けるためのレッスンをほどこす。

【テキスト】

外国の児童書（といっても、日本人にはちょうどであるが）を使用する予定。

【過去の卒論例、または指導可能な領域】

フランス語学、言語学、アジアの言語教育、漫画の国際的研究、絵本の価値、西洋美術史、オノマトペの不思議、色彩の心理学、キリスト教と禅宗、俳句の作り方 etc.

【参加者への要望】

フランス語を勉強した経験がある人がのぞましい。

【現在開かれているゼミの模擬受講】

事前連絡があれば、基本的に O.K です。木曜日 2 時限です。

【オフィス・アワー】

金曜 2 時間目、ただし予約要、予約があれば他の時間帯でもよい。

【その他】

勉強は興味に突き動かされてするものですから、好奇心にあふれている人が結局長続きします。自分には教養がない、語学力がない、などと嘆く前に、ひとつひとつ興味をもって調べていきましょう！



奥村 訓代 ゼミナール

【テーマ】

異文化・多文化の理解と、その為の自文化理解を卒論に活かす！

【授業内容・計画・方法】

基本的に異文化と自文化の双方の良さを認め合い、それを如何に伝えるかを学び、できるだけ将来(卒論・就職)に結びつくよう指導したい。

【テキスト】

ï クラスマートは外国人(明石書店)

ï 世界の言語政策1・2・3(くろしお出版)

【過去の卒論例, または指導可能な領域】

指導可能な領域:受講生の留学先(韓国・中国・インドネシア・ベトナム・アメリカなど)との比較文化、言語政策、異文化理解と世界の日本語教育に関するあれこれ

【参加者への要望】

ï 自分らしさを発揮する気が有る人

ï 新しい自分を創造できる人

【現在開かれているゼミの模擬受講】

いつでも可能(火曜日 2 時限、木曜日 2 時限)。ただし1週間前に連絡要す。

【オフィス・アワー】

基本は、火曜日 5:00から6:00pm

木曜日 4:30から6:00pmとするが、3日前までに連絡がない場合は、不在とすることもある。

また逆に連絡があれば、その他の時間帯も相談に応じている。

【その他】

大学生の特権は、なに？ アルバイトではないよね！ サークルも悪くない。ヨサコイで踊り狂うもまた良し。でも、留学などは如何ですか？ 暇も金も無いから学生時代に交換留学というシステムを利用するのは如何ですか？！奥村ゼミの半数は、留学しふた回り大きくなって帰国しています！！奥村ゼミでは、自主ゼミで留学経験者が留学希望の後輩のために、韓国語・中国語・インドネシア語などを週2回ボランティア教えています。・・・さあ、あなたも参加しませんか？！・・・



小澤 萬記 ゼミナール

【テーマ】

異文化接触、異文化理解、文化変容

【授業内容・計画・方法】

それぞれが持っている漠然とした問題意識を具体的なテーマに絞り込み、それを形にすることを目指します。

2、3年生:1学期はテキストを輪読しながらそれぞれのテーマを探します。2学期は個々のテーマにそった調査・報告が中心です。

4年生:原則として個別指導で卒論を作成します。

【テキスト】

佐々木英昭 編 『異文化への視線』名古屋大学出版会 1996 (主に3年生で使用)

【過去の卒論例, または指導可能な領域】

過去の卒論例(それぞれの年度の『卒論選集』に収録されています)

「人と人との間」について(2002)、日本・ウェディングケーキはじめて物語(2005)、日本の消費市場とフランスの飲料水産業とを結ぶ連関メカニズムの考察(2006)、ワイルドの「宿命の女」サロメ(2006)、日本における「からす」のイメージ(2007)、妖怪と幽霊の境界(2007)

【参加者への要望】

自分自身のテーマを見つけ、それを文章(ことば)で表現するという作業に真剣に取り組むこと。

【現在開かれているゼミの模擬受講】

木曜4時限の2年生向けゼミの見学可能。事前にメールで申し出ること。

【オフィス・アワー】

月曜2時限目(事前にメールで連絡してくれればそれ以外の時間でも対応)

【その他】



上岡 克己 ゼミナール

【テーマ】

アメリカの自然と文化、異文化理解、日英米の環境文学、日米の国立公園の意義、

【授業内容・計画・方法】

1 学期 アメリカは世界最大の二酸化炭素排出国であると同時に、自然環境保護にも熱心な国である。アメリカの自然環境保護運動の過程を辿りながら、現在の環境問題や現在に生きる意味、ライフスタイルなどを考える。

2 学期 履修者との相談で決定する

【テキスト】

1 学期 岡島成行『アメリカの環境保護運動』(岩波新書)

2 学期 未定

【過去の卒論例, または指導可能な領域】

「レイチェル・カーソンの思想と生涯」「大草原の小さな家」「グリーンツーリズムとエコツーリズム」「日本人の自然観」「ドイツはなぜ環境に優しいのか」「黒人差別の歴史」

指導領域:アメリカ文化全体、日英米の環境文学、異文化理解

【参加者への要望】

熱意があれば、今までの知識等は問いません

【現在開かれているゼミの模擬受講】

木曜日 2 限、研究室

【オフィス・アワー】

金曜日 2 限、その他月、木、金の昼休み



古閑 恭子 ゼミナール

【テーマ】

言語と社会・文化

【授業内容・計画・方法】

前半は、文献講読を通して言語研究の動向を知り、方法論を身につける。同時に各自のテーマを絞り込んでいく。後半は、各自発表を輪番で行う。こうした作業を通して、情報収集・整理の仕方、テーマの選び方、論文の書き方などを身につけるとともに、卒業論文執筆のための準備を行う。

【テキスト】

受講生と相談の上決めたい。過去に使ったものは、真田信治編『社会言語学の展望』、河原俊昭編『世界の言語政策』、スザーン・ロメイン『社会の中の言語』など。

【過去の卒論例、または指導可能な領域】

「在日コリアンの言語生活・残存コリア語語彙を中心に・」

「韓国語を母語とする日本語学習者におけるコード・スイッチング・携帯メールにおけるコード・スイッチングを対象に・」

「韓国における英語教育」

「韓国語を母語とする日本語学習の誤用分析」

「アイヌ文化復興への動き・アイヌ語復興活動を中心に・」

「女性ファッション誌における広告カタカナ語の効果的な使用」

「チアチア語のハングル借用における社会的背景」

など。

【参加者への要望】

身の回りの言語に関係する現象や話題に関心を持つこと。

【オフィス・アワー】

月曜2限、それ以外でも対応できる時間があれば対応します。



【テーマ】

文化現象の変遷やその社会的背景

【授業内容・計画・方法】

1 学期はテキストを読み進めていきます。その中で、テーマの種を見つける、文献や資料を探す、そして発表やレポートという形にするといったことを学んでいきます。

それを踏まえ、2 学期は各自が自分のテーマを調べていくことになります。

【テキスト】

受講生の状況を見て選定。

【過去の卒論例、または指導可能な領域】

・「家の間取りと家族の絆」・「オーガニックの光と陰」・「女性向け雑誌広告と若者の新聞離れ」

・「豊かな家とは・間取りと家族のコミュニケーション」・「大学生の弁当意識」

・「高知市の自転車事情」・「試される地域活性・現代アートの社会的効用性」

今の 2, 3 年生は、「ツーリズム」、「写真」、「臭い/香り」、「(女性)美」あたりをさしあたってテーマにしています。

【参加者への要望】

日常生活レベルでいろいろな発見を楽しめる人向け。

【現在開かれているゼミの模擬受講】

のぞきに來てもらって構いません。木曜 4 限に開いています。

ただし、事前に連絡して下さい。

【オフィス・アワー】

木曜 10:30～12:00

上記時間帯以外でも、空いていれば対応します。



【テーマ】持続可能な経済成長

【授業内容・計画・方法】

高知市の中心市街地に行きヒアリングなども行いますが、ゼミでは、テーマとテキストを決めて輪読形式で討論を行います。

〈テーマ・テキスト〉については、受講生の希望に沿って決定します。

〈テーマ〉については、これまでも受講生の希望がほぼ 100%通っています。

〈テキスト〉を受講生で決められない場合には、私（佐野健）が〈テーマ〉に内容上関連する〈テキスト〉を何冊か提示します。

〈今後のゼミの予定（例）〉

- 1、「ひろめ市場」における売り上げに関するヒアリング。
- 2、高知市中央卸売市場の見学。
- 3、中堅スーパーのバイヤーの方のお話を伺う。
- 4、馬路村ゆず加工品の経済効果を試算する。
- 5、中国においてどのようにして iPhone が生産されているのか調べる。

（これらはすでに実施しているものもあります）

【指導可能な領域】

「リーマン・ショック」中国経済や中東和平について取り上げた年もあります。最近では NHK 大河ドラマ「龍馬伝」の経済効果について勉強しました。日本および世界の政治経済問題について議論し、かつ卒論で論じてみたい人は歓迎します。

【最近の卒論のテーマ】

よさこい祭りの経済効果、フィリピンへの経済援助の経済効果など多様。

【ゼミに関する質問など】ゼミに関する質問は、できれば 16:30 以降に来てください。ゼミを見学したい場合には金曜4限にゼミをやっています。



【テーマ】

「日本語」「日本語教育」

【授業内容・計画・方法】

- ・日本語の研究における基本事項、文献の探し方、分析方法などを学ぶ。
- ・日本語・日本語教育に関する先行研究を批判的に読み、議論する。
- ・高知県内における日本語教育事情について学び、調査する。
- ・各自の研究テーマを設定し、調査・研究・報告を行う。

【テキスト】

配布プリント。参考書は適宜紹介します。

【過去の卒論例、または指導可能な領域】

指導可能な領域：日本語、日本語教育に関わること。

過去の卒論例：笑顔は人にどのような影響をもたらすのか／方言に対する意識／女ことばにみる女の力／日本語における「外来語」の存在について／受益表現について／日本語教育における敬語表現について／終助詞について－終助詞「わ」の用法を中心に－／日本語学習者における誤用分析／日本語教科書の分析・ト・バ・タラ・ナラ・／ことばの乱れと定着について／挨拶における日本人の言語行動について／会話分析・「なんか」について・／空間的な認知と言語との関わり・「高い」「長い」の使い分け／流行語と若者ことば／「ていうか」の用法とその使用心理

【参加者への要望】

学生の発表およびそれに対する考察が中心になります。積極的に授業に参加してください。

【現在開かれているゼミの模擬受講】

現在ゼミは開講されていません。

【オフィス・アワー】

火曜日3限(メールで事前に連絡してください。その他の時間も相談に応じます)



【テーマ】

なし(考える力を養う)

【授業内容・計画・方法】

前期は作文および論文の書き方を学ぶ。毎週、作文や論文を書いてもらい、相互に批評し合うなかで、よりよい作文・論文の書き方を体得する。

後期は本を読み、その内容について議論する。

【テキスト】

後期のテキストは未定。過去には、柄谷行人著『世界史の構造』などを用いた。

【過去の卒論例, または指導可能な領域】

分野は問わない。過去の事例:「民間軍事会社」、「トレーサビリティ」、「ペット」、「New Public Management」、「デジタル・ディバイド」など。

【参加者への要望】

真摯に学ぶ姿勢。

【現在開かれているゼミの模擬受講】

不可。

【オフィス・アワー】

木曜日 1 限。要予約。

【その他】

参考文献 以下拙著:①『核なき世界論』(東洋書店)、②『「軍事大国」ロシアの虚実』(岩波書店)、③『ロシアの軍需産業』(岩波新書)、④『ビジネス・エシックス』(講談社現代新書)、⑤『ロシア経済の真実』(東洋経済新報社)、⑥『パイプラインの政治経済学』(法政大学出版局)、⑦『現代ロシアの経済構造』(慶應義塾大学出版会)など多数。



周 雲喬 ゼミナール

【テーマ】

中国文化・言語・社会事情の諸問題を考える

【授業内容・計画・方法】

現在、日本の中国語学習人口はおよそ200万人を突破したようです。これに対して、中国で日本語を学ぶ人口は70万人前後だそうです。中国と日本とは近い国でありながら、両国間の理解は充分とは言えず、お互いに相手の国に対してどのように理解しあうべきかを考えなければならない。理解し合うためには、文化・言葉など両国間の文化の相違等いろいろな課題を認識する必要があります。このゼミでは、中国の社会文化及び中国語にどのような変化が起こってきたかを含め、中国文化・言語等の諸問題を考えることに主眼を置いていく。

<ゼミナールⅠ（2年次）>

ゼミⅠでは中国文化・言語について概説の形で講義を行う。その伝統と現在における文化・言語の様子と変貌を紹介する。その後、各自が中国文化・言語・社会事情などの諸問題に対してその関連する資料を調べ、興味をもつ問題を発見するように努める。

<ゼミナールⅡ（2年次）>

ゼミⅠの学習成果を踏まえ、見つけ出した問題を分析し、解決法を考えることから少しずつ物事に対して論理的にまとめる技能を身につける。さらに調査研究を進めるとともに、レポートにまとめる。

<ゼミナールⅢ（3年次）>

テキストの学習と文献を調べることを通じて、絞られた方向へ研究を進めたうえに問題点を意識する。物事に対する思考力と分析能力が高まることを目指してゆく。

<ゼミナールⅣ（3年次）>

ゼミⅢで意識した問題点をさらに深く突っ込んで考え、関連資料を整理する。論文の構成において文章の章立てなど仕組みの技法を練り、論文執筆の準備を始める。

<卒業論文（ゼミナールⅤ・Ⅵ）（4年次）>

決めたテーマをめぐって、資料を活用し、文章の組み立てを完成することから卒業論文の執筆に集中する。

【テキスト】

受講生と相談のうえで決めるが、専門領域に関する必読的参考書を指定する。

【参加者への要望】

- ・ 中国の文化・言語・社会事情に対して興味をもつこと。
- ・ 読書を楽しめること。
- ・ 独自の思考力を養成するため、物事に対して自発的に考え、議論する事を嫌わないこと。



関 良子 ゼミナール

【テーマ】 <読む>ことの<文化>を考える

【授業内容・計画・方法】

皆さんはこれまで、文章を読むことを、読解する・つまり、書かれた文章を理解する・目的だけで行なっていたかもしれません。しかし、読むことは決して受身的な行為ではなく、読者の頭に自然と創意を生み出すことがあります。こうして物語を読むことから始まった文化は、例えば物語の翻案（映画化など）、翻訳、あるいは民話の語り直しといった形で花開くのです。このゼミナールでは、英語で書かれた物語を題材にして、「翻案」、「翻訳」、「語り直し」等をキーワードに、物語を読むことから始まる文化について考えていきます。

2年生、3年生のゼミナールでは、前期のうちはクラス全体で一つの文献を読み、ディスカッションを通して文献の分析方法や整理方法などを学びます。後期からは、個別に研究テーマを設定し、各自の研究報告・個別指導・研究発表会などを通して、プレゼンテーションの方法や論文の書き方などを学びます。4年生のゼミナールでは、卒業論文のテーマを決め、個別指導、グループ・ディスカッション、中間発表などを経て、卒業論文の完成を目指します。

【テキスト】

前期のうちは、英語で書かれた文学作品を原典で鑑賞します。昨年度はウィリアム・シェイクスピアの『ロミオとジュリエット』、今年度はメアリ・シェリーの『フランケンシュタイン』を取り扱いました。

【過去の卒論例、または指導可能な領域】

過去の卒論例はまだありませんが、英語圏文化に関連した領域であれば指導可能です。

【参加者への要望】

英語では、本に書かれた文章のことをテキスト(text)、その書かれ方、言葉づかいやニュアンスのことをテクスチャー(texture)といいます。テクスチャーはまた、布などの肌触りをも意味します。英語の文章を、肌触りまで味わってみたいという学生に積極的に参加して欲しいです。

【現在開かれているゼミの模擬受講】

2・3年生向けに開講しているゼミを試しに受講してもらうこともできます。その場合は、できれば事前に連絡してください。開講時間帯は木曜2限です。

【オフィス・アワー】 金曜4限 （これ以外の時間帯でも、対応する時間があれば対応します）



Howard Doyle ゼミナール

Email: Room: 人文学部棟 312

【テーマ】(Theme)

Main Themes	Other Specialist Themes
Research and Academic Literacy (for life, career and academic needs) Academic English	Englishes in the World English in Japan Historical Ecology of English

【授業内容・計画・方法】(seminar description, plans, methods/approaches)

Seminars i to ii (Students needs and finding out things to meet students needs & reporting)

- Working out and planning future pathways
- Types of research – what do you need and when

Seminars ii to iv (Primary research, secondary research, case study)

- How to find out something, how to understand it, how to tell about it

Seminar v-vi (Your own research).

- developing, doing, reporting your own primary and/or secondary research project for graduation

** But, if you want to do something special relating to English in the world, English in Japan or how communication with English developed in history, you can do that and I can help you a lot*

In this Seminar, you will learn a lot by researching different things they are interested in. Also, you will learn a lot by hearing from other people in and out of the Seminar. You can learn a lot of different literacy skills and knowledge when you do different kinds of research – this is the emphasis in my Seminar, **as long as you can tell people (me) about it in English**

【テキスト】(text): Provided

【過去の卒論例, または指導可能な領域】(examples of previous thesis titles; areas of supervision)

PAST TOPICS which students in my Seminar have done ARE People's Umbrella Behaviour, Lacrosse, Yoshimoto Kogyo Comedy, Lay Judges (最場人), TV Commercials, Sakamoto Ryoma and Internationalism, English Lyrics in Japanese Songs, Katakana, the Cultural Significance of Black, and Students' Sleeping Behaviour in the University.

【参加者への要望】(request to students)

If you want to LEARN DIFFERENT WAYS TO FIND OUT things, DECIDE how to do things by YOURSELF, learn by doing more than from studying, GET CONFIDENCE & EXPERIENCE, and MAKE YOUR OWN PATHWAY, then this Seminar may be for you.

ALSO you are interested in ENGLISH for communication IN THE WORLD? You can do that TOO.

If you want to come and talk to me (Howard Doyle) – and see some examples of past students' work - before deciding you are very welcome.

BUT, the seminar is **NOT AN ENGLISH LESSON** - we use English and practice, NOT STUDY, it

【現在開かれているゼミの模擬受講】(trial, observing, applying, etc)

If you want to come and talk to me (Howard Doyle) – and see some examples of past students' work - before deciding you are very welcome.

【オフィス・アワー】(office hours)

Wednesdays Lesson 2: 10am-12pm

【その他】(others)

We are in Japan, and it is normal to use Japanese in Japan. But in my Seminar, in the end, STUDENTS NEED TO TELL PEOPLE ABOUT THEIR RESEARCH IN ENGLISH.



【テーマ】

「情報メディアと社会」

当ゼミでは「情報」「メディア」「ネットワーク」「IT(情報通信技術)」「インターネット」「マルチメディア」「マスコミ」等のキーワードをよりどころに、現代社会と情報メディア(及びメディア技術やメディア構成体)との関係について一緒に考えていきたいと思います。

【授業内容・計画・方法】

＜ゼミナールⅠ（2年次）＞

前半で問題解決技法について学び、身近な事象を論理的に把握するスキルを学びます。その後、メディア関連の基礎理論について学習していきます。

＜ゼミナールⅡ（2年次）＞

グループ単位で調査研究を進めます。現地調査を行い、そこで得られた多様なデータを活用して、レポートにまとめます。

【テキスト】

テキストについては受講者と相談のうえ決定したいと思いますが、基本的にはメディア論、情報社会論、マスコミュニケーション論やその周辺領域の内容を取り上げる予定です。

【過去の卒論例、または指導可能な領域】

指導可能な領域としては、社会情報論、情報社会論、メディア論、マスコミ論など。

過去の卒論例:「インターネット上における著作権侵害対策についての提言」、「現代の女子大学生における流行の服飾の採用動機について」、「よりよい健康情報番組を提供するために:『発掘!あるある大事典Ⅱ』にまつわる課題」、「報道被害の現状と改善策としての調査報道」等

【参加者への要望】

「自ら考えることが好きな人」「人と建設的な議論をするのが好きな人」「勉強も遊びも一生懸命楽しむ人」「楽しいゼミを創っていこうという意欲的な人」「私の研究領域であるメディア論、情報社会論、マスコミュニケーション論などに興味のある人」。このような学生の参加を希望します。

【現在開かれているゼミの模擬受講】

3年生向けに開講しているゼミを試しに受講してもらうこともできます。その場合は、必ず事前に連絡をください。開講時間は金曜日5限です。

【オフィス・アワー】

金曜日4限(要予約)。この時間帯以外でも、対応する時間があれば対応します。必ず事前に予約をしてください。

【その他】

希望がある場合、ゼミ合宿を行うこともあります。



中西 三紀 ゼミナール

【テーマ】「ラテンアメリカの社会と経済」「貧困・格差問題」「人種問題」

ラテンアメリカという新興国や途上国が入り混じる地域に関する知識を手掛かりとして、ラテンアメリカをはじめとする途上国社会を蝕み続け、人類が永きにわたって解決できていない「貧困・格差問題」や「人種問題」などについて、ゼミ生の皆さんと検討していきたいと思っています。

【授業内容・計画・方法】

ゼミナールⅠ・Ⅱでは、ラテンアメリカに関する基礎的文献を輪読します。ゼミナールⅢ・Ⅳでは、ゼミナールⅠ・Ⅱでの学習をもとに各自のテーマを絞り込んでいきます。各自が興味を持つテーマについて調査・報告し、他のゼミ生と検討・議論します。学期末には半年間の調査と議論をふまえて小論文を作成します。最終年の卒論ゼミでは、卒論のテーマを決め、卒論執筆に集中します。

ゼミナールⅠからⅣを通じて、文献の探し方および読み方、レジュメの作成方法、注の付け方等々を適宜指導します。

【テキスト】

初回授業時にゼミ生と相談して決めます。

【過去の卒論例, または指導可能な領域】

上記【テーマ】に即する領域であれば指導可能です。

なお、高知大学に着任して間もないため、「過去の卒論例」はまだありません。

【参加者への要望】

本ゼミナールでは以下のような学生の参加を歓迎します。

- ・自らの見識を深め、自分の意見や見解を持ちたいと願っている人
- ・他人の意見を真摯に受け止め、また議論することができる人

【現在開かれているゼミの模擬受講】

ゼミを試しに受講することは可能ですが、その場合は事前に連絡のうえ受講してください。

ゼミⅡ＝金曜日 4限 ゼミⅣ＝火曜日 3限

【オフィス・アワー】

月曜 1限

上記時間帯以外でも対応可能であれば対応します。いずれも事前に予約を取ってください。



中森 健二 ゼミナール

【テーマ】

中国・日本の文学・文化

日中の文化交流(史)、日中文化のそれぞれの独自性の考察

【授業内容・計画・方法】

受講生と相談の上、中国および日本の文化に関わる書物を選ぶ。その講読を進めるなかで、各自、興味を持ったテーマについて調査・検討し、レジュメ作成した上で報告、全員で検討・議論を重ねる。その成果をふまえて小論文を作成・提出し、あらためて相互批評をおこなう。

【テキスト】

受講生と相談の上、決める。

【過去の卒論例、または指導可能な領域】（ここ二年の提出卒論タイトルを挙げます）

「白居易文学における女性像」

「夏目漱石の「個人主義思想」について」

「『ウォールデン』に関する一考察・人間的完成を求めて・」

「ロマの現在・統合にむけての課題・」

「FLO にみる今後のフェアトレードの在り方・貧困からの解放」という原点を踏まえて・」

「日本の貧困と非正規雇用」

「死後の名前について」

「日本人の「名づけ」について・「人名」を中心にして・」

「日本社会における男性問題」

【参加者への要望】

未知の世界で、真剣に遊んでみましょう。

【現在開かれているゼミの模擬受講】

(open class/trial seminar – e.g. seminar II and/or IV, dates, application procedure)

2・3年生対象のゼミ(金曜4限)の受講希望があれば、メールにて事前に連絡してください。

【オフィス・アワー】

木曜 12:30～13:30 これ以外でも、空き時間があえば。メールにて連絡してください。(同上)

【その他】

なし



【テーマ】

1. 卒業論文につながるようなテーマの見つけ方
2. 調査研究手法と基本的知識及びスキル
3. 関連分野の先行研究等を読むための英語力

【授業内容・計画・方法】

1. 関心のあるテーマについての視点・論点を考える。
2. 先行研究・資料入手法と分析手法を知る。
3. 自らの考えを口頭および文章で効果的に発表報告する。
4. 発表報告の評価とフィードバックについて学ぶ。

【テキスト】

特になし(随時プリント配布)

【過去の卒論例, または指導可能な領域】

＜過去の卒論例＞

- ・アジア諸国における小学校英語教育
 - ・言語としての手話に関する研究:ろう教育での活用と社会的認知に向けて
 - ・労働における男女間格差の実情と企業のポジティブ・アクション:男女間格差是正に向けて
 - ・アメリカ合衆国における言語政策と英語公用語化運動
 - ・日本のODAにおけるジェンダー主流化政策の現状
 - ・音節境界に渡る子音連続における母音挿入の考察」
 - ・ロシア語における語彙文法の通次的研究
-
- ・日本人学習者に対する英語発音教育について

【参加者への要望】

【現在開かれているゼミの模擬受講】

【オフィス・アワー】

火曜日4時限



丸井 一郎 ゼミナール

【テーマ】

社会・文化とコミュニケーションの生態論、ヨーロッパ(中欧ドイツ語圏)の社会・言語・文化、日欧比較とくに地域社会と飲食行動

【授業内容・計画・方法】

社会・文化とコミュニケーションの様々な領域に関わるテーマを取り上げて学ぶ。例えば、相互行為とは何か、相互行為と飲食行動、異文化間コミュニケーションの事例、欧米文化と日本文化の理解、言語とは何か、自己と他者のイメージ、ヨーロッパの飲食文化など

＜全体の枠組み＞

1. 導入講義: 領域やテーマの紹介、選択
2. 個別報告と質疑
3. 個々のテーマのまとめ(討議、新課題の設定など)
4. 報告書作成

【テキスト】

授業中に指示

【過去の卒論例, または指導可能な領域】

日常談話の精密構造の分析、飲食文化論(スローフード論)、物語(文学)テキストの分析、お笑いの日米比較、教室の相互行為、俳句のコミュニケーション、儀礼と酒、パンの耳(フードシステム論)、「かわいい」論、寿司とアメリカ人

【参加者への要望】

今ここですぐに考えること、正確でなくてもいいから、「それなり」のことを早く思いついて表現すること、パブリックなものの言い方をすること、に早く慣れて下さい。

【現在開かれているゼミの模擬受講】

2・3年生向けに開講しているゼミを試しに受講してもらうこともできます。その場合は、できれば事前に連絡してください。開講時間帯は木曜4/5限です。

【オフィス・アワー】

月曜日4限、または水曜日5限(要予約)



持尾 伸二 ゼミナール

【テーマ】

「読んで、考えて、書く」力を身につける

【授業内容・計画・方法】

最初の一年間は、自分の興味のある対象についての様々な文献を読んでまとめ、それを授業で発表してもらいます。3回生の終わりまでに、その中から最終的に卒論のテーマを決めて、4回生からは卒論作成にとりかかることになります。

【テキスト】

特にありません。

【過去の卒論例、または指導可能な領域】

「日独のまちづくりの比較と地方都市の取り組み」「日本の物語に登場する橋についての考察」
「映画に描かれたアイルランド史」「昔話の中の動物たち」「幸せとは何か-アメリカの家族映画から考える-」「『女大学』から読み解く山本周五郎の『日本婦道記』」「醤油の文化史」

【参加者への要望】

食欲な好奇心を持って、できるだけたくさんの本を読んでください。そしてその中から卒論のテーマをぜひ見つけてください。

【現在開かれているゼミの模擬受講】

【オフィス・アワー】

火曜日・金曜日 12:30-13:00



森 直人 ゼミナール

【テーマ】

このゼミナールでは、主として英国の歴史と思想を学び、その中で人間と社会の関わりについて考えて行きたいと思います。

現代の日本とは異なる時代と場所について学び、そこで生きた人々の経験や思想を知ることは、私たちの視野を広げ、物事の新しい見方を教えてくれます。このゼミナールでは、主に近世の英国の歴史と思想に関連する文献を読解し(一学期)、また参加者各自で関連する研究テーマを設定し、調査・発表を行います(二学期)。なお、文献の検索と読解、研究テーマの設定、調査と発表、レポートや論文の作成などについても、ゼミナールの中で少しずつ指導して行きます。

【授業内容・計画・方法】

2・3年生のゼミは合同で行い、4年生は個別の卒論指導となります。2・3年生の一学期には、英国の歴史や思想に関わる共通のテキストを読み、その中で各自が関心のあるテーマを絞り込んで行きます。2・3年生の二学期は、各自のテーマに基づいて調査と発表を行い、その内容を一本のレポートへと育てます。

なお夏休みには他大学との合同ゼミ合宿を行っています。2009年は京都大学と合同で京都・大原で、2010年は京大・神戸大学と合同で高知・桂浜で、2011年は京大・神大と兵庫・淡路島で二泊三日の合宿を行いました。

【テキスト】

一学期は、英国の歴史や思想に関わる共通のテキストを読解します。テキストは、参加者の希望も聞きながら、第一・二回の授業時に決定します。来年度のテキスト候補(一部)は以下の通り。

- ・ウォーラスティン、イマニュエル、山下範久訳(2006)『入門・世界システム分析』、藤原書店。
- ・コリー、リンダ、川北稔監訳(2000)『イギリス国民の誕生』、名古屋大学出版会。
- ・ミル、J. S.、水田洋訳(1997)『代議制統治論』、岩波文庫。
- ・Fletcher, Andrew (1997) *Andrew Fletcher: Political Works*, ed. by John Robertson, Cambridge University Press.

【過去の卒論例、または指導可能な領域】

まだ卒業生はいませんが、参考までに、現四年生の卒論のテーマを挙げておきます。

- ・水産資源保護と漁業者所得の両立～「土佐の清水さば」を手本として～
- ・『教育論』を通して見えるジョン・ロック
- ・ロバート・オーウェンの試みと現代におけるその意義
- ・フランス貴族の食文化はどのようなものだったか

【参加者への要望】

- ・「いま・ここ」とは違う時代、異なる場所に生きた人々の、ものの見方や考え方に関心を持つこと。
- ・自分で問いを立て、他の参加者に自分の考えを伝え、対話しながら互いの考えを共有すること。

【現在開かれているゼミの模擬受講】

模擬受講可能です。希望の方は、金曜4限に直接国際社会演習室5まで来てください。

【オフィス・アワー】

オフィス・アワーは火曜4限(14:50-16:20)です。それ以外の時間帯も対応できますが、できれば事前にメールで予約してください。



山下 興作 ゼミナール

【テーマ】

- ・声は文字より想いを伝える
- ・動き出せる身体を作ろう
- ・「すり合わせる」力を身につけよう

【授業内容・計画・方法】

立ち方、歩き方から始め、発声、声の伝え方、視線の取り方等を、いくつかのゲームやアクティビティを通じて学んでいきます。併せて、芝居の1場面を使って、言葉のやり取りをし、学んだことの定着と個々の弱点の克服をはかります。その後、配役をきめて、一本の芝居を通して作り上げていき、その過程を通じて「互いの想いをすり合わせる」とはどういうことかを体験します。

【テキスト】

いま使っている台本は、『六本木少女地獄』(原くる)です。

【過去の卒論例、または指導可能な領域】

大衆文化に関わるもの。ちなみに昨年度は下の通りです
「漫画「xxxHOLiC」における創作法から見える魅力について」「ディズニーが考える理想のカップル像」「アニメ『新世紀エヴァンゲリオン』の鑑賞と解釈:「気持ち悪い」の真意に迫る」「現代の若者のコミュニケーションの在り方」「喫茶店で流れる音楽の必要性:環境作りとしての音楽」「『ボーイズラブ』について:何故「リバーシブル」が少ないのか」、など

【参加者への要望】

上手・下手は関係ありません。どうすれば自分の言葉が相手に届くのだろうか。どうすれば人の言葉をしっかり受け止められるのだろうか。そんなことに興味があれば、それだけで十分です。

【現在開かれているゼミの模擬受講】

いつでも歓迎します。金曜5限、210番教室です。少々汚れてもいい恰好でください。

【オフィス・アワー】

木曜2限 研究室(人文棟433室)にて。その他、研究室にいるときは大抵対応可です。

【その他】

卒業生の声をいくつかあげておきます。

- ・堅苦しさがなく、のびのびと活動できます。
- ・舞台に興味がない人でも、自分をさらけ出すことができるようになるかも。
- ・高知大で一番変わったゼミだけど、一番仲のいいゼミかも。
- ・ジャージで出席しましょう。汗かきますよ。体からも心からも。
- ・日頃のしぐさが変わってきますよ!!!
- ・いつもゼミが終わったあとは体力がなくなります。
- ・何かをしたいけど、何をしたいか分からない人にぴったり!



吉門 牧雄 ゼミナール

【テーマ】

このゼミナールでは、日本文化をより深く、またより広く理解するために、外国人の視点から見た場合、日本文化がどのように評価されているのかを探っていきます。同時に、英語で書かれた日本文化論を読むことによって、日本文化を世界に発信していくために必要な英語力の涵養を目指します。さらに、卒業論文の執筆に備えて、研究テーマの選び方、資料の探し方、論文の書き方などを丁寧に説明します。

【授業内容・計画・方法】

前半は小泉八雲『日本の心』の中から、「夏の日の夢」「停車場にて」「旅の日記から」「ある保守主義者」「生神様」などを英文で精読し、八雲が初めて体験した日本の印象、また、彼が知った日本人の心情をどのように英語で伝えたかを学びつつ、日本文化を英語で紹介することの意義を探りたいと思います。

後半は佐伯彰一・芳賀徹編『外国人による日本論の名著』に紹介されている書籍の中から自分の興味のある本を選び、その詳細な内容とそれに対する各自の批評とを発表してもらいます。他者の見解を鵜呑みにするのではなく、その問題点を指摘しつつ批判的に評価する訓練をします。ただし、2011年度の授業で扱った文献は対象から外します。

【テキスト】

小泉八雲『日本の心』（講談社学術文庫）

佐伯彰一・芳賀徹編『外国人による日本論の名著』（中央公論新社）

その他、参考資料などについては授業の中で適宜紹介します。

【過去の卒論例、または指導可能な領域】

イギリス言語文化（詩、小説など）、日本文化表現法、小泉八雲、茶道、武士道、中東問題などについての卒論指導ができます。遠慮なく相談してください。

【参加者への要望】

授業への積極的な参加と十分な予習を期待します。また、いろいろな事柄に対して問題意識を持ってほしいと思います。そのような問題意識と探究心の中から、将来の卒業論文のテーマを発見してほしいと思います。

【オフィス・アワー】

木曜日4時限・吉門研究室（人文学部棟3階316）



Darren Lingley ゼミナール

【テーマ】(theme) Intercultural Communication, Comparative Culture, ELT

【授業内容・計画・方法】(seminar description, plans, methods/approaches)

Seminar I: General themes related to IC and comparative culture.

Seminar II: Emphasis on authentic listening materials: spoken language features.

Seminar III: Students will present on themes of interest and lead seminars by reporting on a literature review

Seminar IV: Reporting research: academic writing. Assigned writing projects.

Seminar V/VI: Preparation of thesis (method, data collection, process writing)

【テキスト】(text)

Students will maintain a file of selected readings, assignments and items related to individual research aims.

【過去の卒論例, または指導可能な領域】

2010 (Child Adoption in Japan)

2009 (A Study of African American Vernacular Based on Authentic Spoken Texts)

【参加者への要望】(request to students)

Students should have an interest in the course themes, and motivation/ability to study in English. Prior consultation with instructor is recommended.

【現在開かれているゼミの模擬受講】(trial, observing, applying, etc)

(open class/trial seminar – e.g. seminar II and/or IV, dates, application procedure)

First-year students are free to attend Seminar II (Friday, 4th period, Room 6, 3F) on December 9th and December 16th.

【オフィス・アワー】(office hours): Monday (1:10-2:40)

【その他】(others)

A sub-theme of each of my Seminar courses is improvement of language ability in each of the major skills. The focus will alternate between language improvement and concentration on content. All course instruction will be in English.

